

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされており、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2022年度) 評価結果報告書

2023年2月27日

社会福祉法人森友会
しきの森保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構
認証評価機関番号 機構 03
電話番号 03-6279-0331
代表者氏名 理事長 中込 重秋



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
②	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営	
③	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営	
④	H1001023	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営	
⑤		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営	
⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営	

福祉サービス種別	認可保育所		
評価対象事業所名称	しきの森保育園		
事業所連絡先	〒	182-0034	
	所在地	東京都調布市下石原二丁目54番1号	
	TEL	042-426-7151	
事業所代表者氏名	堀 俊郎		
契約日	2022年	8月	1日
利用者調査票配布日(実施日)	2022年	11月	7日
利用者調査結果報告日	2022年	12月	28日
自己評価の調査票配布日	2022年	10月	15日
自己評価結果報告日	2022年	12月	28日
訪問調査日	2023年	1月	6日
評価合議日	2023年	1月	6日
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目及び事業所と協議のうえ設けた独自質問により、インターネットでのウェブアンケート形態で実施した。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシの配付、提出期限の延長など、回答率向上にも努めた。 ・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。		

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての子どもの最善の利益のために「心身の調和的発達」を促す保育 すべての子どもが、自分の流れで園生活を楽しむ。 ・すべての子どもの最善の利益のために「基本的な生活習慣」の育成を進める保育 すべての子どもが、無理なく自立への道を進む。 ・すべての子どもの最善の利益のために「集団への参加と自主協調の態度」を養う保育 すべての子どもが協力・協働の喜びを知る。 ・すべての子どもの最善の利益のために「正しい言語生活や自然・社会現象に対する興味と関心」を育てる保育 すべての子どもが、自然・社会に積極的に関わる。 ・すべての子どもの最善の利益のために子どもらしい表現によって、「生きる力の基礎」を培う保育 すべての子どもが、自分なりに表現を楽しんで発表する。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	<p>(1) 職員に求めている人材像や役割</p> <p>社会人として世の中の規範や法人の規則を守り、人には優しく常識的な行動をとるとともに、保育士として子ども達に温かい心を持って丁寧な接し方を求めている。主任、リーダー等の上位職にある人に関しては、自分の置かれている立場を自覚して、リーダーシップを持って各フロアの職員を率先して引っ張って行ってほしい。経験の浅い職員は少しでも先輩の職員に近づこうとする意識を持ち、分からないことは質問し、自己研鑽に励んでもらいたい。</p>
	<p>(2) 職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>しきの森保育園で預かる子ども達の「最善の利益のために」を常に考えて子ども達に接するようにする他、子ども達の自主性・自発性を促す事ができる生活環境、遊びの環境、行事計画・行事実施・行事評価を行ってほしい。職員は「先生」と呼ばれる事に対する自覚と責任を持ち、普段からの服装・態度・発言等を常に意識した行動を取り、他者との協調性を図り、保護者に信頼される人間関係の構築を行ってほしい。</p>

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯63(在籍児童数80.)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数	80
利用者家族総数(世帯)	63
共通評価項目による調査対象者数	63
共通評価項目による調査の有効回答者数	47
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	74.6

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」53.2%・「満足」34.0%の計87.2%で、設問別では「子どもの気持ちの尊重」「保護者に配慮した行事日程」「急な残業等への配慮」など、全17問中14問で80%台～100%の高い支持を得ている。自由意見では「アプリで一日の様子が写真で届くところや、子どもが自由に遊べ、定期的に玩具の入れ替えや環境が変更され、工夫されており、子ども会議のような話し合いを採り入れ、造形とリズムの時間があるのもうれしい」「異年齢保育で担任制ではなく、わが子のことを先生皆が把握してくれている点や、男性保育士が複数在籍している点、保護者の負担軽減に配慮してくれている点が良い」「0・1歳クラスから食器に陶器を利用してくれ、完了食以降は自分で器を運んで食事ができる点、行事や体験できることが多いところがよい」「子どもの気持ちを尊重し、個々に合わせた保育をしてくれ、地域や社会との関わりを意識した活動を採り入れており、開放的で、父親も保育に関わりやすい環境の園だと思ふ」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見として複数見られたのは、保育内容や子どもの様子などの発信、安全・保健に関することである。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	45	2	0	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が95.7%、「どちらともいえない」が4.3%となっている。自由意見は17件で、「異年齢と関わることで、より発達が促されているように思う」「集団生活の中で同年齢の子どもたちと家族とではできないような遊びや、子どもが主体での活動、花を買いに行き飾る、調理をする、畑に行き収穫するなどの体験をさせてくれありがたい」「造形や表現の先生が来る日を楽しみにしている」などのほか、日常の保育内容について、さらなる検討を望む声があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	43	4	0	0
「はい」が91.5%、「どちらともいえない」が8.5%となっている。自由意見は13件で、「興味を持ったことを思う存分やらせてもらいたいがありたく、日々の制作、造形やクッキング、園外活動を楽しみに登園している」「毎日違う遊びをしているようで、楽しんでいると思う」「自ら遊びを探し、決め、集中して遊び込んでいるように感じる」「保育園で作成したものをうれしそうに説明してくれ、行事など毎回楽しみにしている」などのほか、保育の内容や方針について、気になる点が挙げられている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	41	5	0	1
「はい」が89.1%、「どちらともいえない」が10.9%となっている。自由意見は11件で、「わが子が1回でご飯を食べられないことが多いが、そこに対しても配慮してくれているようでありがたい」「栄養バランスも考えられていて、比較的に子どもの食べやすいメニューになっているように思う」「今日は野菜を食べたよ、うれしそうに報告してくれ、昼食も工夫が凝らされており、手作りのお菓子もいつもおいしそうに食べているようだ」などのほか、離乳食の進め方やおやつのお味つけに関する声が見られた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	36	9	2	0
「はい」が76.6%、「どちらともいえない」が19.1%、「いいえ」が4.3%となっており、「はい」の値には前回(2019年度・以下同、64.7%)からの改善傾向が見られる。 自由意見は17件で、「年に数回、近所の畑で収穫体験をさせてもらっており、散歩で花屋さんに行き花を買いに行くなどの体験をしている」「天気が悪くない日は毎日テラスや園庭で思いきり遊べており、カブトムシを膝に乗せたりと、家ではできない自然とのふれ合いを楽しんでいるようだ」などのほか、戸外活動等のさらなる充実を望む内容が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	39	1	0	7
「はい」が97.5%、「どちらともいえない」が2.5%となっている。 自由意見には「延長が始まるギリギリの時間に連絡しても快く対応してくれ、とても感謝している」「仕事柄、時期で利用時間がずれるが、柔軟に対応してくれ、助かっている」「比較的ギリギリの時間まで、延長保育の受付をしているようだ」「柔軟に対応してくれなかったことは、今のところ一度もなかった」「よく対応してくれて、本当に感謝している」など7件があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	35	8	3	1
「はい」が76.1%、「どちらともいえない」が17.4%、「いいえ」が6.5%となっている。 自由意見は12件で、「コロナの時も消毒、換気など細やかに対応しており、雨の日の後などは、園庭の整備を先生が熱心してくれてありがたかったほか、滑り台のささくれといった遊具の劣化や駐輪場が暗いことを相談した時もすぐに対応してくれ、とても助かった」「特に大きなケガなど発生しておらず、安全対策には気を遣ってくれていると思う」のほか、保育中の安全管理や設備面、職員の体制等について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	45	1	0	1
「はい」が97.8%、「どちらともいえない」が2.2%となっている。 自由意見には「行事は土曜日が多く、コロナ禍ということもあり、短時間で参加しやすかった」「休日である土曜日に面談してくれ、とても助かっている」「だいたい土曜日のため、参加しやすい親が多いと思う」「年間の行事表の配付にプラスで、事前アンケート等アプリ上で完結するものが多く、日程調整しやすく助かっている」「毎回楽しく参加している」など7件が寄せられている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	39	5	1	2
「はい」が86.7%、「どちらともいえない」が11.1%、「いいえ」が2.2%となっており、「はい」の値は前回(69.8%)から改善されている。 自由意見は9件で、「お迎えのタイミングや個人面談など、先生と話しやすい環境なので助かっている」「よく相談しており、園での対応も教えてくれ、先生からも家ではどうですかなど声をかけてくれ、安心して預けることができている」「気になったことは聞きやすい雰囲気だ」などのほか、職員の対応や園との信頼関係の構築について、さらなる配慮を望む声が見られる。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	40	4	2	1
「はい」が87.0%、「どちらともいえない」が8.7%、「いいえ」が4.3%となっている。 自由意見は12件で、「子どもが這いずり回っていても、気にならないきれいだ」「とても清潔で掃除が行き届いて、いつも感動している」「いつもきれいに整っており、時折配置換えをしたり、工夫も見られる」「清潔で整頓されており、温かみのある空間になっている」などのほか、各所の清掃・整理整頓や子どもの動線に配慮した環境構成などについて、さらなる配慮を望む声が見られる。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	43	2	1	1
「はい」が93.5%、「どちらともいえない」が4.3%、「いいえ」が2.2%となっている。 自由意見は10件で、「先生はとても熱心に子どもに関わってくれ、些細なことも相談に乗ってくれる」「程よい距離感で話やすく、服装も適切、言葉遣いや態度はとても丁寧だと思う」「職員は私服で、それぞれの個性が感じられていいと思っており、言葉遣いも動作も子どもの手本となるよう守っており、すごいと思う」などのほか、職員の保護者・子どもへの接遇や服装・身だしなみについて、気になる点や要望が挙げられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	43	2	1	1
<p>「はい」が93.5%、「どちらともいえない」が4.3%、「いいえ」が2.2%となっている。 自由意見は6件で、「連絡アプリを活用し、何かあればすぐ連絡をしてくれ、急を要さないような症状の場合でも、『念のため』と画像を撮って送ってもらえ、その点もありがたい」「看護師が常駐しているのに加え、近くの提携医にすぐに連れていってくれるので助かっており、きちんと連絡と状況説明もしてくれる」「適切に対応してくれ信頼できる」などのほか、体調不良時の対応について、さらなる検討を望む声があった。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	34	4	1	8
<p>「はい」が87.2%、「どちらともいえない」が10.3%、「いいえ」が2.6%となっており、「はい」の値は前回(65.0%)から改善されている。 自由意見は7件で、「基本は見守る姿勢だが『乗り越える力』がつくよう複数の先生が気にかけて、見守ってくれている様子で、集団生活に必要なスキルを徐々に身に付けられていると思う」「きちんと聞き取りをしてくれ、子どもたちの気持ちを受け止めつつ対応してくれている」などのほか、職員の対応やトラブル発生時の保護者への報告・情報発信について、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	46	0	0	1
<p>有効回答者46人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には「グループ型で担任という形ではないが、情報共有がしっかりされ、先生全体で子どもに関わってくれ、大切にしていると感じる」「いつもきちんと話を聞いてもらい、気持ちを大切にしてくれており、子ども先生を信頼しているのがわかる」「どのように対応しているか聞いて、家でも参考にしており、気持ちに寄り添って一人の人として接してくれている」「子どもたちをよく見て考えて対応してくれていると思うので、相談した際にそう感じる」など8件があった。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	41	1	1	4
<p>「はい」が95.3%、「どちらともいえない」が2.3%、「いいえ」が2.3%となっている。 自由意見は2件で、「特に踏み込んだことは聞かれないので、気にならない」のほか、プライバシー保護等へのさらなる配慮を望む声があった。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	39	4	3	1
<p>「はい」が84.8%、「どちらともいえない」が8.7%、「いいえ」が6.5%となっており、「はい」の値は前回(66.0%)から改善されている。 自由意見は7件で、「パワーポイントの資料をもとに細やかな説明があり、連絡アプリで日々情報を発信してくれわかりやすい」「送り迎え時に気になることは話せるほか、基本的な園の生活や特色は入口に掲示されておりわかりやすい」などのほか、子どもの発達の目標や見通しの共有、入園時の説明や職員の対応などについて、さらなる検討を望む声が見られる。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	37	5	1	4
<p>「はい」が86.0%、「どちらともいえない」が11.6%、「いいえ」が2.3%となっている。 自由意見は4件で、「話を聞いてくれ、きちんと確認したうえで返答、対応してくれている」「こちらの話を真剣に聞いてくれ、可能な範囲で対応してくれる」「気にかけてはくれていると思う」などのほか、不満・要望等の伝えやすさについて、さらなる配慮を望む声があった。</p>				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	20	12	5	10
<p>「はい」が54.1%、「どちらともいえない」が32.4%、「いいえ」が13.5%となっている。 自由意見は4件で、外部の意見窓口の周知やトラブル等の発生時の相談先について、気になる点や要望が挙げられている。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
		○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
		○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている
		○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している
		○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	
	評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている
		○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
		○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
		○非該当
	カテゴリ1の講評	
	<p>法人共通の理念・方針等について、保護者や職員への周知が図られている</p> <p>法人の基本理念とする「すべての子どもの最善の利益のために」のもとで、心身の調和的発達、基本的な生活習慣や集団への参加・自主協調の態度の育成など5つの保育方針を定め、保育の基調とする「誉める保育」などとも、保護者には見学・入園時に説明を行っている。また保護者会や毎月の便り、毎日の掲示・配信による日々の保育と子どもの育ちの発信も、これらに対する保護者の理解獲得の一助としている。職員には入職時の研修の際に、前述の理念・方針等が伝えられ、その後の日々の会議での話し合いや定期的な自己評価が再確認の機会となっている。</p> <p>組織として方向性を共有し、共通認識のもとで日々の運営を行えるよう配慮している</p> <p>諸事情から職員体制の変動が続き、組織の同僚性の向上や連携体制の確立を課題としており、毎回の会議では「誉める」「主体性」「コーナー保育」など、法人の保育の根幹となるエッセンスについて、テーマごとに職員持ち回りでプレゼンテーションを行い、その後の話し合いによって共通理解を深めている。また経営層が現場の状況を踏まえて直近の諸課題に関する方針を検討し、直後の会議で現場に発信するほか、「スマイル全開」「美しく」を年度のスローガンに定め、職員の日々の指針とするなど、組織として方向性を共有する取組をさまざまに行っている。</p> <p>意思決定と職員・保護者への周知の仕組みを整え、園の保育の基盤確立にも注力している</p> <p>原則毎週行う各階の会議で、保育や子どもなどに関する実務的な事柄を話し合い、それらの共有と園全般の検討・決定を、主に経営層の随時の話し合いや、常勤者による毎月の職員会議で行う仕組みとしている。昨年度から安全の確保・向上に注力し、法人本来の保育の軸である一人ひとりの主体性・自発性の尊重との両立やバランスを課題として、環境・援助両面の日常のルール作りにも取り組んでいる。各会議の内容を含む必要な情報は、議事録の確認などによって組織全体に周知され、保護者には主にアプリでの配信により、各種の重要な連絡事項を伝えている。</p>	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1 (2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>保護者や職員の声、地域の状況や行政の動向などを、さまざまな方法で把握している</p> <p>保護者の意向を、年2回の保護者会や毎日のコミュニケーション、個別の面談や行事後の感想収集などから把握し、日々の保育や園運営、行事などの参考としている。また職員の意向は、前述の各会議や定例・随時の個別の面談などから把握し、保護者の声と同様に課題抽出に活かしている。見学で来園する未就園世帯との会話や、市の私立保育所園長会、地域内の保・幼・小の連絡会などから、市内及び地域の教育・保育や子育て等の状況などを把握するほか、左記の市の園長会や自治体等の発信物などから、関連する行政の政策・制度の動向を確認している。</p> <p>事業環境の動向などを法人内で共有し、中・長期的な共通課題などを計画に定めている</p> <p>施設経営等に関する各種制度・政策の動向や、直近の業界内の話題は、法人の系列各園の園長が集う毎月の会議でも随時共有されている。また園の収支・稼働率などの経営状況の管理や予算の作成は園長が行い、前述の法人の園長会で法人本部や系列各園と共有する仕組みとなっている。法人理事長作成の「中長期・短期事業計画」に、法人及び事業環境の現状を踏まえた「最重点課題」として、保育の質の向上や広報活動の見直し、管理職のレベルアップや地域との交流及び地域貢献などが挙げられており、後掲の各計画はこれらを踏まえて立案されている。</p> <p>中・長期的な目標・諸課題から日々の実務まで、計画作成のもとで実行がなされている</p> <p>今年度から5か年の当園としての中・長期計画に、事業環境の現状と展望を踏まえ、「目指すべき目標」と今後の経営継続に向けた諸課題を定め、取り組むべき10の「重点事項」と各年度の取組を列挙している。また年度の事業計画として、保育や人材の確保・育成など、運営における主要分野の方針や取組の概要を定めている。保育や行事・防災・保健などの現場の実務に関しても、業務ごとに年間計画と具体的な取組・目標等に関する各計画が作成・実行され、保育の年間計画の四半期ごとの評価・反省など、計画の期間や内容に応じた進捗確認がなされている。</p>		

カテゴリ-3		
3	経営における社会的責任	
サブカテゴリ-1 (3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2 (3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-3の講評		
<p>各職員の規範意識を高めるために、入職以降のさまざまな啓発の機会が設けられている</p> <p>今年度改訂された法人共通の「職員の心得マニュアル」に、勤務上の各種心得や保育者として望まれる態度・所作などが明示され、機密保持の徹底や子どもの人権・尊厳の尊重についてもこの中で定められている。職員には入職時に関連する啓発がなされるほか、常勤者にはこれらの規範・倫理について、園長・副園長と一般職者の各階層で毎年度の自己評価が課されている。また同マニュアルは改訂に合わせ、組織内で確認を促すほか、前述の毎月の会議での園・法人の保育に関する話し合いなどにより、子どもへの関わり等における規範意識の向上を図っている。</p> <p>園内・家庭での虐待等の防止や、保護者の苦情・要望等への対応の体制を整えている</p> <p>いわゆる不適切保育を防ぐために、全職員が法人策定のチェックシートを用いた自己点検を年4回行い、子どもへの呼称や言葉遣い、身体的接触など、子どもへの関わりを振り返っている。また虐待防止に関する法人策定のマニュアルを職員に回覧するほか、関係機関との連携体制を整え、支援を要する子ども・家庭の継続的な見守りなどを行っている。第三者委員を含む苦情解決制度について、入園時の説明や園便りへの記載等によって保護者に周知を図るほか、面談や日々の会話・連絡帳等から保護者の意向を把握し、案件に応じた適切な対応を図っている。</p> <p>地域への情報発信や職場体験生の受け入れ、保育・教育施設との連携がなされている</p> <p>ホームページや正門前の掲示板、調布市を通じて園の各種情報を発信するほか、市内の中学校から職場体験生を受け入れており、実習生の受け入れやそのための各養成校との関係構築を課題としている。市の私立保育所園長会や地域内の保・幼・小の連絡会を通じ、保育・教育施設間の連携に加わるほか、入園前見学で来園する未就園世帯には育児相談等への対応を行っている。園庭開放や各種講座など、園の専門資源を活用した地域の子育て支援の再開・拡充も課題としており、取組を通じて地域からの信頼や評価の向上にもつなげたいと考えている。</p>		

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>災害・侵入や各種感染症など、さまざまな重要リスクへの対策に取り組んでいる</p> <p>日常の事故防止や各種災害、新型コロナウイルス等の感染症など、時季や園内の状況に応じた各種重要リスクへの対策を行っている。災害・感染症を想定した事業(業務)継続計画(BCP)をそれぞれ作成し、必要な更新を行っており、研修・訓練等による現場への周知を課題としている。また毎月の避難訓練によって災害時の対応や保護者との連携を確認しており、発災の時間帯についてはより多様な設定も期待される。毎年度の不審者訓練実施や防犯カメラによる監視、人・環境両面の日常的な各種防疫対策など、侵入や感染症への備えにも取り組んでいる。</p> <p>保育中の各種の事故を防ぐために、現場の啓発や対策の検討に注力している</p> <p>毎月の会議では、看護師が感染症対策や夏の水遊び時の安全確保など、直近の重要リスクに関する啓発を行っている。子どもの睡眠時の状態確認や猛暑時の戸外活動等の自粛など、SIDS・熱中症への対策を行うほか、保育中の事故やヒヤリハットについて、原因・対策の検討と現場への周知により、予防・再発防止を図っている。看護師がそれらの事例の集計・分析を行っており、発生傾向などの現場への周知にも活用されたい。誤飲リスクの排除を目的に、教具の取り扱いや子どもへの援助等を話し合うなど、各種安全対策の検討・実施に注力している。</p> <p>各種情報の取り扱いと漏洩の防止について、関連の規程等や仕組み・環境を整備している</p> <p>重要書類の施錠管理、PC・タブレット使用時のパスワード・IDによるログイン制限など、情報漏洩の防止に配慮するとともに、個人情報及び文書の管理・利用、開示・訂正等の請求への対応などについて、法人共通の規程やマニュアルが定められており、マニュアルは今年度改訂されている。職員には入職時などに、これらに関する啓発を行い、実習生等には受け入れ時に守秘義務の厳守を求めることとなっている。保護者には入園時に、各種情報の利用目的や、行事等での私的撮影物の取り扱いにおけるプライバシー保護について、説明と同意確認を行っている。</p>		

5 カテゴリー5		
職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリー5の講評		
<p>職員の確保と異動・配置による人材構成の最適化や、労働環境の諸整備に取り組んでいる</p> <p>法人の広報・採用委員会が系列各園と協力し、職員の募集・採用を行っており、各種養成・採用機関や関連のイベント、法人サイト・SNSや在職職員の紹介など、多様な媒体・ルートを通じた人材確保に努めている。異動は法人、配置は園内において、各人の意向・キャリア形成を考慮したうえで、園の状況と各人の経験・適性、チーム保育を行ううえでの関係性や経験等のバランスを踏まえて決定している。就業状況の管理やストレスチェック実施など、労務面の諸整備にも努め、今回の職員自己評価も踏まえ、現場の負担感抑制や同僚性の向上を図る意向である。</p> <p>自己評価と面談による育成の仕組みや、職員のキャリア形成・研鑽等の指標を定めている</p> <p>法人共通の「振り返りシート」により、各職員が自己評価と年度の振り返り、次年度の目標や受講すべき研修の設定を行い、園長との面談で進捗・達成を確認する仕組みを設けている。また職務分掌表と「職員のキャリアプランについて」に、職員のキャリア形成の道筋と、職位ごとの職責や求める能力・姿勢、経験年数等の目安を一覧化し、各階層で望まれる研鑽内容を「役職と必要な研修内容」に図示している。これらの職員への周知は、「職員の～」上の成長ルートを面談時に個別に伝える程度となっており、書面による共有など、より明確な提示も期待したい。</p> <p>内外の研鑽による職員の学びの充実を図り、組織の活力向上の各種取組にも注力している</p> <p>都キャリアアップ研修を中心に、外部の研修の受講による各職員の専門性向上を促すほか、当園を含む系列の各園で、法人の保育の基本とする「誉める保育」について、観察と話し合いによる実務的な研鑽がなされている。また法人内外の専門家により、チーム力向上やリーダー一層・主任育成、表現活動等に関する研修も設けられるなど、法人内の多様な学びの場が設けられている。前述の毎月の会議での法人の保育に関する共通理解の形成、環境美化・図書・給食・安全衛生などの各委員会の活動など、現場の主体性の喚起と同僚性の促進にも取り組んでいる。</p>		

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>昨年度は組織のチームワーク向上と安全管理の徹底を重点課題として、取組を行った。その前年度に諸事情から職員の入れ替わりが少なからず発生し、当園での勤務歴の浅い職員が現場の中核を担う中で、年度末から昨年度前半にかけて、保育中の事故・トラブルやヒヤリハットが相次いだ。子どもの自発性や主体的な活動を尊重し、保育者がチームとしてそれを見守ることを保育の基本としており、子どもの自由な発想や行動を、安全確保を徹底しつつ支援するうえでは、保育者間の連携・協同が必須となる。その前提となる職員同士の関係性の構築を含め、組織として研鑽を図り、確かなチーム力の確立を目指すこととした。</p> <p>外部の専門機関によるチーム力向上の研修を設け、年間2回にわたり、グループワーク等による話し合いと園の諸課題の抽出を行った。またその中で、自己紹介やストレッチ、ペアで行うゲーム等のアイスブレイクを適宜行いつつ、各人のコミュニケーション力の向上や、対話を通じた関係性の深まりも促した。各研修後にはその成果を活かし、フロア会議でさらに話し合うことで、環境・設備面の改善や、保育提供の際のルールの明確化につなげていった。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>職員自己評価では組織内の人間関係や連携・チームワークなどについて、肯定的な意見がさまざまに上げられる一方、ほぼ同数のバランスで、情報共有や経営層と現場との意思疎通などに関し、課題を示唆する声も見られている。経営層も取組は道半ばと認識しており、今年度も引き続き同僚性とチーム力の向上に取り組んでいる。</p> <p>安全面の向上については、園内の事例をもとに、各階及び組織全体で随時話し合い、事故の抑制・防止につなげる取組を行っている。また「誉める」「主体性」「コーナー保育」「ビュッフェ式」など、法人の保育において基本とする手法や考え方について、各職員にテーマを割り振り、担当が毎月の職員会議で5～10分程度のプレゼンテーションを行うとともに、その後の話し合いなどによって共通理解を深める取組も設けている。</p>	

評価項目2
 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)
 上記「評価項目1」とも関連し、昨年度はその前年度末から年度前半にかけて、園庭での落下や室内活動中の転倒・打撲など、受診・治療を要するケガが相次いで発生したことから、安全確保の徹底による事故の抑制・防止を重点課題の一つとして、取組を行った。上述の外部機関によるチーム力向上での話し合いをもとに、園内の設備・環境上の安全面について、各職員の気づきや課題認識を集約し、その後の各フロア会議で各階の要改善箇所の抽出や、室内外での活動の際のソフト・ハード両面の配慮点など、保育提供時のルール作りに取り組んだ。
 またこれらと並行し、職員・来園者の体調確認とマスク着用・手指消毒、園内各所の換気・消毒の徹底など、新型コロナウイルス等の感染症のまん延防止対策も、年間を通じて日常的に行っている。

目標の設定と 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評
 一連の取組は、「園庭のルール」等の園独自の手引き類の整備をはじめ、一定の成果につながっている。ケガの件数等の定量的な比較においては、明確な減少傾向は見られていないが、上述の一昨年度末から昨年度前半に発生したようなレベルの事故については、経営層は抑制が図られていると考えている。
 今年度も取組を継続しており、事故やヒヤリハットの発生・把握のつど、原因・対策を検討するとともに、会議や全員閲覧の「コミュニケーションノート」等を通じた現場への注意喚起を行っている。それらの事例は看護師が毎月集計と傾向分析を行っており、職員の保育中の危険の予測・察知に役立てるべく、その現場への周知を行うことも期待される。
 また2歳児の室内活動における誤飲リスクの排除について、教具の取り扱いや子どもへの援助について話し合うなど、重要な事例については会議で再度詳細な考察を行い、予防・再発防止の徹底を図っている。1・2階の各職員が集い、2階保育室と園庭を中心に、安全上で気になる点を出し合い、「検討事項」としてそれらを集約するとともに、必要な対策を検討し、経営層がまとめて一覧化するなど、さまざまな取組がなされている。

II サービス提供のプロセス項目 (カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の実望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>ホームページや園前の掲示板を活用し、保育の特色や内容などを発信している</p> <p>法人のホームページ(以下、「HP」)には、系列園共通の保育理念や、「誉める保育」「夢中になって遊べる環境」「異年齢保育」の3つの大切に保育内容などを、写真や紹介コメントなどを添えて発信している。HP上で、保育のこだわりや内容などを伝える広報物「コンセプトブック」や、園での具体的な活動や子どもの姿などを紹介する動画も公開するほか、園のページでは基本情報や一日の流れ、年間行事などが紹介されている。その他、園前の掲示板にて、園の特色や具体的な内容を示した資料等を掲示し、近隣の方への情報提供を行っている。</p> <p>行政との連携のもとで、園のさまざまな情報を、地域の方々へ公開している</p> <p>行政との連携のもとで園の情報を公開している。市のHPでは入園関連の手続きや各園の概要などが掲載されるとともに、時期によって市内保育所の各年齢ごとの定員と空き状況などが公開されている。また市と子育てネットワークが協同で子育て情報を発信する「調布市子育て応援サイト」には周辺地域及び園の特色の紹介がなされるとともに、園からの思いを添えたメッセージ、食事のこだわりや専任講師による活動などを含む園のさまざまな情報が掲載され、地域の方々への情報提供が行われている。</p> <p>見学を随時受け入れており、園内を案内しながら、丁寧な説明に努めている</p> <p>見学は電話予約で受け付けており、子どもの様子を見てもらえるよう、10時30分頃を基本とし、園の運営・保育等で支障のない範囲で希望者の都合に合わせて日程を調整している。当日は子どもの主体性の尊重や異年齢の保育、誉める保育などの保育の特色、一日の流れや年間の行事、食事・保健面などを具体的な事例や写真などを織り交ぜた資料をもとに説明しており、エピソードを交えながらイメージしやすいように伝え方の工夫をしている。また室内を回って実際の子ども姿を見てもらい、適宜、質問に答えるなどして丁寧な説明に努めている。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
入園が決定した家庭に対し、利用開始にあたっての重要事項を説明している 入園が決定した家庭には、オンラインでの入園説明会と、対面の個人面談・検診を行っている。事前に「入園のしおり」と重要事項説明書、各種の資料を送付し、各書類の通読や必要事項の記載などを依頼している。入園説明会では、スライドをもとに、子どもの主体性の尊重や異年齢の保育、誉める保育などの保育の特色、一日の流れや年間の行事、食事・保健面などの内容を説明するほか、リズム遊びや行事の様子などを収めた動画を見てもらうことで理解が深まるよう工夫している。これらの説明と質疑応答のうえで、重要事項説明に関する同意を得ている。 子ども一人ひとりの成育歴や健康面の情報などを面談時に把握し、保育開始に備えている 入園時の面談では所定のシートをもとに、これまでの家庭での生活面や健康状態、食事の状況など、子どもに関する情報を保護者から聴き取っている。また食物アレルギーや既往歴などがある場合は看護師が同席し、より詳細な情報を取得しており、一覧表にしたうえで職員間で共有している。この他、保護者が記入・提出した資料からも、家庭及び就労の状況、子どもの生活リズムや特性、保護者からの要望・意向などを把握している。これらの情報をフロアごとの担当間での共有、会議やノートを利用した周知を図り、保育開始後の子どもへの支援に役立てている。 環境変化に伴う子どもの負担軽減と、保護者の不安解消などに配慮している 環境変化に伴う子どもの負担軽減等を考慮し、保育時間を徐々に延ばす「慣らし保育」を実施しており、保護者の就労等の状況を踏まえて面談時に日程を設定している。開始後はお迎えの際に子どもの様子や状況などを保護者と共有しながら、その子に合わせた柔軟な対応を行っている。また入園式後に保護者に開始後の説明を再度したり、質問等があれば相談に応じたりするほか、年度前半の保護者会の際に、動画や写真などを用いて園での子どもたちの姿やその様子を見せるなど、保護者の不安解消と安心感が高まるような配慮にも努めている。		

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3の講評		
<p> 子どもの成長・発達や保護者の情報を定期・随時に記録し、適宜の更新を行っている 入園時に把握している子どもや保護者の情報は、定期・随時に記録し、適宜更新している。子どもの健康面については、身長・体重の推移や、園で行った健診結果を連絡アプリに入力して保護者と共有し、予防接種の記録は保護者に「けんこうのきろく」へ記載してもらうほか、保護者の情報は随時追記することとしている。また心身の発達を、主な発達の現れに関するチェックリストを用いて確認しており、生活と遊びにおける成長面、家庭の状況のほか、健康面や情緒面など、子どもの全体的な姿に対する職員の所見は「参考となる事項」として記述している。 </p> <p> 全体的な計画をもとに、保育・保健・食育等の計画を策定し、実践している 全体的な計画をもとにして、年間を4期で構成する保育計画を策定しており、全体的なねらいのほか、養護・教育の各領域、長時間保育、異年齢保育、保護者支援に対する目標や方針を定めている。年間計画は子どもの育ちの流れを踏まえたものとして策定し、月・週の計画は、子どもの姿や季節的な内容を踏まえ、具体的な活動を想定して作成し、実践につなげている。各計画は周期ごとに振り返りを行って次の計画に活かすこととし、計画は事務室内に掲示し、職員間の共有につなげている。そのほか保健計画・食育計画等の分野別の計画も策定している。 </p> <p> 個人別の計画を策定して、個々に応じた援助を行うほか、保育内容を保護者に伝えている 3歳未満児については、個人別の指導計画を毎月策定し、0・1歳児は個別の日々の記録もつけるなど、個々の発達や状況に応じた援助につなげている。2歳以上児についても、特別な配慮や援助を行った場合などに、子どもの様子を日誌に記録することとしている。保育内容については日々の活動は写真にコメントを付して玄関に掲示するほか、連絡アプリでも配信しており、動画の方が伝わりやすいものについては、撮影して玄関のディスプレイで再生したり、アプリで配信したりするなど工夫している。 </p>		

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和り取りする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
<p>個人情報やプライバシーの保護、子どもの羞恥心や自尊心への配慮に努めている</p> <p>入園時には個人情報の利用に関する同意を書面で確認しており、子どもの情報を外部とやり取りする必要がある場合には、そのつど保護者の同意を得ることとしている。子どものプライバシーと羞恥心の芽生えへの配慮として、おむつ替えは他から見られない場所で行うほか、着替えの際にもカーテンなどを用いて、外部からの視線を遮ることができるようにしている。また排せつの失敗の際や、子どもに注意する必要がある場合には、子どもたちの自尊心への配慮として、他児に気づかれないように行うなどの工夫に努めている。</p> <p>子どもの最善の利益を考えたうえで、それぞれに応じた配慮や支援に努めている</p> <p>保護者との会話や面談などを通じて、子どもの生活習慣や保護者の意向等を把握し、それを踏まえつつ、子どもにとって最善な保育を考えたうえでの配慮・援助を行っている。また子ども一人ひとりと向き合い、個別の関わりを大切に「誉める保育」を行っており、日常の保育の中で子どもの意思や自己選択を尊重しながら主体的な保育実践に努めている。今年度は、法人が大切にしている保育に関連するテーマごとで、職員が各自で調べたことをプレゼン形式で他の職員に報告しており、みんなで話し合うことで園全体の理解を深めることにもつながっている。</p> <p>虐待に関する対応の仕組みを整え、会議や研修報告等で組織内での情報共有を図っている</p> <p>虐待への早期発見や対応などに関連するマニュアルを整備するとともに、日頃の登園や着替えの際の観察等から早期発見に努め、兆候や事例を察知した場合は関係機関への通告や連携を行う仕組みを整えている。職員会議において各家庭の困りごとや配慮事項などを話し合い、必要な支援のあり方を検討したうえでそれぞれの状況に合わせた配慮や支援に努めている。また職位に応じて受講が課せられるキャリアアップ研修において、対象となる職員が保護者支援や虐待に関する研鑽を図ることとしており、その結果をレポートの閲覧にて組織内で共有している。</p>			

サブカテゴリ6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
6	事業所業務の標準化	5 / 5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ6の講評		
<p>運営全般の考え方や手順等をまとめた手引きを整え、着実な業務遂行に努めている</p> <p>系列園共通のマニュアルには、職員の心得や子どもの人権の尊重のほか、災害・アレルギー・安全管理・健康管理・感染症などの各種業務手順や考えなどが定められており、事務室内で閲覧に供している。また職員の勤怠や事務及び清掃の業務などを定めた園独自のルールがあり、非常勤を含めた全職員に年度ごとで配り、その内容を確認している。日常的な業務や実践状況について会議で確認したり、その徹底を促すほか、実施漏れがないよう、清掃・SIDS・食事提供などについてはチェック表を用いて着実な実行に努めている。</p> <p>法人内外の知見を活かし、さまざまな見直しや高め合いが行われている</p> <p>法人内において、専門部会や各委員会による情報共有を図るほか、行政等からの通知や各園の運営状況などを踏まえ、各種の仕組みに関する見直しを行うこともあり、変更した内容等が各園に展開されることとなっている。また系列園で行う「誉める保育研究会」では、自園を見てもらったうえで他の職員の意見や提案を聴いたり、他園の取組・工夫などを自園の保育に活かしたりと相互に高め合う機会としている。また市の保育アドバイザーが来園し、保育の現場観察後に専門的な視点からの助言が得られており、会議で共有し、現場での配慮や工夫に活かしている。</p> <p>職員や保護者の意見などを踏まえ、運営や行事等の検討・改善などに取り組んでいる</p> <p>フロア会議や職員会議等を通じて、保育の環境や各書類の見直し、業務の改善などに取り組むほか、園独自のルールは年度末までに各リーダーに確認したうえで、必要に応じて内容を更新している。図書・環境美化・給食・安全保健などの委員会活動を行っており、各担当が必要な事項などを検討し、対処を行うことで、園内の環境保全や質的な向上を図っている。行事後においては保護者アンケートを実施するとともに、職員の振り返りや意見などを募っており、これらを会議で共有したうえで、次年度の検討・改善事項などに反映させている。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35 / 35
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>子どもの興味・関心、成長・発達を把握し、環境構成の工夫に努めている</p> <p>子どもの興味や関心、成長・発達は、定期的に行う発達の確認と記録や計画の作成、フロア会議などを通じた職員間での情報共有、送迎時の保護者との対話や連絡帳のやり取りなどを通じて把握している。把握した情報をもとに、教具や絵本の内容を見直したり、追加したりするほか、子どもの様子から動線を見直して、観葉植物を設置したり、生活面や活動内容を踏まえて棚や机の位置を見直したりするなど、環境構成の改善を図っている。教具も自由に手に取れるように提示し、異年齢で過ごす幼児クラスでは、発達に応じた内容となるよう配慮している。</p> <p>子ども同士のトラブルでは、発達状況ややり取りの様子を踏まえた援助に努めている</p> <p>0・1歳児の、教具の取り合いなどのトラブルの際には、気持ちに寄り添いながら、関わり方を言葉で伝えるとともに、かみつぎについてはできる限り未然に防ぐことに努め、起こってしまった場合には保育者が相手の気持ちを代弁し、言葉での伝え方を教えるようにしている。言葉が使えるようになった子どもに対しては、双方の気持ちを確かめつつ、代弁したり、一緒に考えたりしながら、相手の気持ちを想像できるよう援助するほか、自分たちで解決する体験ができるよう、子どもたち同士のやり取りが見られる場合には、様子を見守ることも大切にしている。</p> <p>異年齢保育によって子ども相互の育ち合いを促し、子どもの特性への配慮にも努めている</p> <p>発達の異なる子どもたちがともに過ごすことで、年上児には、思いやりの心や優しさなどの心の成長が見られ、年下児はまねながら所作や学びを獲得するなど、育ち合いが促されている。異年齢でのトラブルでは互いの気持ちに寄り添いつつ、問題を整理して納得できるよう代弁・仲裁し、年上児が一方的に我慢することのないように配慮している。毎週のフロア会議では、特段の配慮を必要とする子どもへの援助を議題の一つに採り上げ、子どもの状況や特性を職員間で共有し、必要な援助を検討して実践につなげている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登園・降園の際には、子どもの状況を保護者と伝え合い、職員間でも情報を共有している</p> <p>登園前には家庭で検温を実施してもらい、登園時には受け入れを担当する保育者が、保護者と挨拶を交わしながら視診を行い、家庭での検温の結果や、前日からの子どもの体調・機嫌などを聴き取るほか、目に見える範囲の傷の有無や顔色・表情を確認している。受け入れ時の情報は「受け入れ表」に記録し、保育者は確認する仕組みとしており、0歳児については受け入れ後に検温を実施し、記録している。降園時に子どもの様子を伝える際には、できる限り一人ひとりの生活面・遊び面等のエピソードを添えるよう努めている。</p> <p>休息は一人ひとりの状況を踏まえ、それぞれの意思や体調に応じて取れるようにしている</p> <p>休息は子どもの欲求や生活リズムに応じて取れるようにしており、乳児の午前寝や夕寝だけでなく、幼児クラスにおいても、横になりたい様子が見られたり、求められたりした場合には、布団を敷くなど場所を確保している。午睡は、3歳以上児については子どもの意思を尊重しており、子どもの様子を見ながら、誘いかけたり、気持ちを聴いたりするなどの配慮に努めている。睡眠時にはSIDS対策を講じ、定期的に記録を行っている。また子どもがリフレッシュできるよう、各クラスにはジョグボトルを用意し、自由に水分を摂れる環境を整えている。</p> <p>基本的な生活習慣の習得への援助は、発達を踏まえ、意欲を尊重して行っている</p> <p>排せつの自立に向けた援助では、子どもに無理のないように進めることを前提としており、トイレに誘いかけるところから開始し、トイレへの関心が高まっている様子や、排尿間隔が一定になっていること、尿意を大人に伝える姿などが見られる頃から、パンツへの移行を進めている。保護者にもパンツや着替えの準備等の協力を依頼している。衣服の着脱は、保育者が一緒に行いながらコツを伝え、できた時には誉めて意欲を高められるよう援助し、自分でできるようにしてから、見守りつつさりげなく手伝ったり、最後の仕上げを助けたりしている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもの興味・関心のほか、活動の特性を踏まえた環境構成の工夫に努めている</p> <p>子どもたちのさまざまな興味・関心に応じられるよう、室内の教具は、定期的に見直しを行っている。子どもが遊び込めるよう、遊びの特性を踏まえて環境構成を考慮したり、壁に向かって机を置いて、集中して取り組めるようにしたりするほか、オペレッタや運動遊び、ダンスなどを楽しむ表現スペースを確保し、自由な制作活動を楽しめる環境を整え、個人用の制作途中のものを取っておく場所も用意している。また年度後半には年長児が別部屋を活用して、年齢・発達に応じた活動や、就学に向けた活動、子ども同士で話し合う「こども会議」などを行っている。</p> <p>集団活動に主体的に参加できるよう工夫し、言葉の獲得を促している</p> <p>音楽表現や造形、お集まり、ルールのある遊びなどの集団遊びの際には、活動の楽しさを想像できるような話をするなど、雰囲気づくりに努め、子どもが主体的に参加できるようにしている。また集団活動に参加が難しい子どもには、気持ちを尊重し見守り、体験を保障できるよう誘いかけている。言葉を獲得を促すため、援助や関わりの際には、身の回りの物や動作、感覚を言葉にして伝え、絵本の読み聞かせや手遊び等を採り入れている。幼児クラスでは「はい」「いいえ」で答える質問ではなく、思いを言葉で答える必要のある問いかけを大切にしている。</p> <p>表現活動や戸外活動などを通じて、子どもたちの心身の発達を促している</p> <p>造形活動では、さまざまな素材・道具・表現技法を体験しながら、自由な表現を楽しんでいる。オペレッタではお話からイメージをふくらませ、音楽に合わせて演じ、みんなで一つのを作り上げている。園庭には大型遊具が設置されており、遊びながら体幹が鍛えられ、バランス感覚が養われている。また砂場では泥団子作りや見立て遊びを楽しむほか、夏場などには水を入れ、川や池を作ったりして遊んでいる。散歩は一人ひとりの発見や子どもとの対話を大切にすため、少人数で出かけ、季節の移ろいや自然の不思議に触れる機会となっている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>保護者への発表を伴う行事は、日々とのつながりや主体性の保障を基本としている</p> <p>保護者への発表を伴う「もりんびっく(運動会)」や「フェスティバル(発表会)」では、発表が目的となって無理な活動とならないよう心がけ、日々の活動とのつながりを持たせるとともに、子どもたちの声や興味・関心などを踏まえ、主体的な取組とすること、みんなで取り組むことの楽しさを味わえることを基本としている。もりんびっくでは親子競技・ダンス・かけっこに取り組み、フェスティバルでは、年間を通じて取り組んできたオペレッタのほか、ダンスや合奏などを発表しており、保護者に子どもの成長を伝える機会となっている。</p> <p>夏祭りや「お泊まり保育」など、日常と異なる体験ができる行事を実施している</p> <p>日常の保育とは異なる体験を楽しむ行事もさまざまに実施している。夏祭りでは保育者が準備した、輪投げ・的当て・ヨーヨー釣りなどのゲームや、制作を楽しみながら、夏の雰囲気味わっている。年長児は法人のバスで品川の水族館まで出かけており、友達との楽しい時間を過ごすこと、公共の場でのルールやマナーを守ることをねらいとして取り組んでいる。「お泊まり保育」ではフォトフレームと光るプレスレット作りのほか、夕食のクッキング、暗号を解きながらの宝探しを楽しむなど、仲間同士で過ごす思い出の一日としている。</p> <p>季節の行事や誕生会を実施し、行事への取組を保護者に発信している</p> <p>端午の節句や七夕・クリスマス・餅つき・節分・雑祭りなど、日本の伝統行事や季節感のあるイベントでは、子どもたちに由来や意味を伝えるほか、七夕の短冊や、クリスマスツリーのオーナメント作り、節分には豆に代えて紙のボールで邪気を払うなど、制作活動や遊び・風習を楽しみ、行事食も提供している。子どもの一人ひとりの誕生日当日には、みんなで歌を歌うなどして成長を祝っている。行事の際には、行事計画を作成し、実施後には振り返りを行い、次回への参考としている。行事への取組の様子は、日々の活動報告として保護者に発信している。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間が長くなる子どもの健康面・情緒面への配慮に努めている</p> <p>保育時間が長くなる子どもたちの健康面への配慮として、毎日の健康観察を行っている。登園時には視診によって子どもの状態を把握し、保護者からも子どもの様子を聴き取り、視診時の情報は職員間で共有するほか、0歳児は受け入れ後の検温も実施している。また適宜水分補給を促し、休息も体力や生活リズム、子どもの希望などを踏まえて、できる限り個々に応じて取れるようにし、延長保育時には栄養補給として補食を提供している。情緒面に不安が感じられる時には、保育者がスキンシップを図るなどして、安心できるよう関わっている。</p> <p>自由に遊びを選べるようにするとともに、安全面や環境の変化による負担に配慮している</p> <p>子どもたちが遊びや仲間を自由に選び、過ごせるよう、室内にはパズルやカードゲーム、ままごとなど、さまざまな遊びを用意し、屋内・園庭など遊ぶ場所も自由に選択できるようにしている。18時以降の異年齢保育が実施される時間帯では、体格差のある子どもが一緒になることを踏まえ、安全面への配慮として、年上児には衝突などの危険性を伝えて注意を促すほか、気持ちを落ち着かせてから合流することとしている。また入園直後には、保育時間を徐々に延ばして一日の保育につなげる「慣らし保育」を実施し、環境の変化への負担を軽減している。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>食事中においても、子どもの主体性を尊重した援助を行っている</p> <p>子ども一人ひとりの生活リズムや体力はそれぞれ異なること、楽しい雰囲気の中で食事することを大切にしており、昼食は11時からの2時間以内であれば、子どもが空腹を感じた時に、一緒に食べたい仲間とテーブルを囲み、会話を楽しみながら食べられるようにしている。配膳時には、子どもが保育者に自分の食べられる量を伝え、歩ける子どもであれば乳児であっても、食事の支度も自分でしており、注意して食器を運ぶことを体験から学ぶなど、食事を通じて子どもの自主性やものを大切に扱う心なども育てられている。</p> <p>一人ひとりの状況に応じた安全な食事の提供に向け、さまざまな対策を講じている</p> <p>離乳食の進め方については、保護者との面談を行い、咀嚼の状況や経験食材を確認し、段階を決定することで、無理のないように進めており、初めての食材を提供する際には、家庭で複数回体験した後に提供するようにしている。食物アレルギーを持つ子どもへの対応では、医師による診断のもとに保護者と面談を行い、対応に関する同意を確認している。提供時には、複数職員による確認、専用のテーブルを使用など、誤配・誤食の防止に努めている。離乳食やアレルギー対応食に対するこれらの方針は、「入園のしおり」に記載し、保護者との共有を図っている。</p> <p>子どもたちが体験を通じて食材への関心を高める、さまざまな食育活動を行っている</p> <p>年長児は稲作について学んでおり、収穫の頃には農家に出かけ、稲刈りや天日にかける様子を見学するほか、お米屋さんに出かけ、お米に触り、精米までの流れを見学している。おにぎりを作るにはどんな人が関わっているのか、稲作について知り、お米や食べ物の大切さを感じる体験となっており、子ども同士で話し合う「子ども会議」では、いただきますの意味を考える時間を設けている。またサンドイッチ作りやカボチャの茶巾絞り、カボスのゼリーでは果汁搾りを体験しており、年長児の「お泊まり保育」では、調理器具を使った夕食作りに取り組んでいる。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもが健康や安全を意識できるよう、必要な支援を行っている</p> <p>園生活の中では戸外活動後やトイレ後などで、子どもが手洗いに取り組んでいる。また室内に鏡やティッシュを準備し、自分で口や鼻を拭いて清潔にすることができるようにするほか、園庭等の遊びの後で汗をかいたら、水分補給をしたり、着替えをしたりと、必要時に大人が声かけや援助などを行いながら、子どもたちが健康的な生活習慣が身に付けられるようにしている。園外活動の前にはお集まりの時に約束ごとなどを知らせるほか、避難訓練では「おはしも」の約束ごとをイラストなどを用いながら、子どもが身近な危険の回避ができるように説明している。</p> <p>専門家との連携のもとで、子どもの健康面の指導や管理に努めている</p> <p>年2回、市の歯科衛生士が来園し、3歳以上児を対象として、年齢に合わせた方法で子どもたちが歯の大切さや磨き方などを教えてもらう機会があるほか、看護師による手洗い指導ではストーリー制のある内容で、子どもが理解し、進んで手を洗うことに取り組めるよう工夫している。看護師が乳児・幼児のフロア担当と連携して子どもの健康管理を行うほか、保育中の体調変化やケガ等があれば看護師に相談したうえで対処するなどしている。嘱託医との健診時や随時の連携体制を整えるとともに、近隣の医療機関のリストを作成し、万が一の対応にも備えている。</p> <p>保護者に対して、感染症や健康維持などに関する情報提供を行っている</p> <p>嘱託医による定期健診や園での身体測定などが行われており、「けんこうのきろく」やアプリを通じて、その結果を保護者と共有している。保護者に「入園のしおり」をもとに感染症の留意点や与薬等に関する説明を行うほか、毎月、保健便りを発行し、季節ごとの感染症の留意点や保健・健康などに関連する家庭でも役立つ情報提供を行っている。園では手洗い・手指消毒や検温などの対策を講じており、新型コロナウイルスの発生後には速やかな発生状況の報告に努めるほか、流行している感染症などがあれば、内容や留意点などを保護者に知らせている。</p>		

8 評価項目8		保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている			○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている			○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている			○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている			○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している			○非該当
評価項目8の講評				
<p>保護者とのコミュニケーションを図り、それぞれの状況に応じた支援・配慮に努めている</p> <p>保護者とのコミュニケーションを大切にしながら、信頼関係の構築に努めており、送迎時の会話や連絡アプリでのやり取り、保護者会や個人面談などを通じ、各家庭の子育てや就労等の状況を把握し、職員間で情報共有を図り、それぞれへの支援や配慮を行っている。急な残業等による利用時間の変更や延長保育のスポットでの利用などに柔軟に対応するほか、連絡アプリや動画配信などICTツールを活用した保護者との連携など、利便向上にも配慮している。行事後には保護者アンケートを実施し、寄せられた内容を踏まえ、次回開催時の改善にも反映させている。</p> <p>親子や保護者同士の会話の深まりと、保護者の育児等の不安解消などの工夫を行っている</p> <p>日々の送迎時や行事参加時などで、顔を合わせた保護者同士の自然な会話が行われるほか、玄関フロアでは各種の掲示や動画の閲覧、絵本や育児関連の書籍の貸し出しのスペースを設け、親子の会話や、職員と保護者とのコミュニケーションにもつながっている。年2回、開催する保護者会では写真・動画等を用いて子どもたちの様子や園で大切にすることなどを説明するほか、懇談の時間を設け、保育者がコーディネーター役を担いながら、保護者同士での家庭での悩みや育児に関する話などができるようにし、リフレッシュや悩み解消などの一助としている。</p> <p>子どもの成長や保育の様子などを可視化し、保護者と共有している</p> <p>「もりんびっく(運動会)」「フェスティバル」等の保護者参加の行事は、土曜日を中心として設定しており、今年度から保護者会も土曜日に開催するなど、保護者が参加しやすいよう配慮しながら、子どもの育ちや保育に関する理解を深める機会を設けている。また、園内での掲示や連絡用アプリなどを活用し、5歳児のやり取りから発展した活動とその推移などを写真とコメントで紹介した「こどもかいぎ」のほか、フロアごとの一日の様子のお知らせと、子どものエピソード記録、行事ごとの子どもの様子を収めた動画など、多様な情報を保護者に発信している。</p>				

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活用した活動が、子どもたちの多様な体験や興味の伸長につながっている</p> <p>毎週、子どもたちと近隣の花屋へ出かけて、園内の各テーブルなどに活ける花を購入したり、地域の農園で芋や大根の収穫体験をしたりするほか、5歳児は市の公共施設で人形劇を見る機会が設けられている。また食育活動の一環として子どもたちが話し合っておにぎり作りを進める中で、米屋や農家等に出かけて米の精米や栽培などの話を聞いたり、スーパーで具材を購入したうえで、実際に食べるといった経験も得られている。その他、職場体験で来園した中学生と子どもたちが一緒に遊ぶなどの交流を図るなど、地域資源を活用した活動が行われている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	異年齢保育を実施し、年齢相互の育ち合いを促している	
内容①	0・1歳児、2歳以上児が生活と遊びをともにしており、発達の異なる子どもたちが関わることによって、年齢相互の育ち合いが促されている。年上児には、思いやりの心や優しさなどの心の成長が見られ、年下児には、年上児にお世話してもらふことで、親しみや憧れを抱き、一緒に遊ぼうとしたり、まねをしたりしながら、さまざまな学びを得ている。異年齢保育の実践にあたり、保育者はどの年齢の子どもも楽しめる教具を用意するほか、危険を回避できるよう、子どもたちが選んだ遊びが発達に合っているか、注視し援助できるよう努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	子どもが話し合って主体的に取り組む活動が、豊かな体験と興味の発展をもたらしている	
内容②	年長児の食育活動では、おにぎり作りに何が必要か、どうしたらいいかなど、子どもたちと話し合いを重ね、それぞれの気づきを活かして、調べたり考えたりして進めている。近隣の米屋に出かけて食べるお米となるまでの過程を聞くほか、後日、紹介してもらった農園に出かけ、米作りの話を聞きながら稲刈りを体験したり、田んぼにいる生物を追いかけたりしている。その後に、おにぎりの具材をみんなで考え、商店で実際にお金のやり取りをして購入するとともに、園で実際に作って食べるといった経験となるなど、多様な体験や視野の広がりにつながっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
タイトル③	職員間での保育の大切にする内容の理解を深め、情報発信力の向上につなげている	
内容③	法人・園で大切にしている「見守る」「保育環境」「食事」「コーナー保育」「主体性」「誉める」などのテーマごとに、担当の職員が調べて内容をまとめたうえで他の職員にプレゼンテーションを行っており、それを職員間で話し合う機会を毎月設けている。その場の対話を通じて、職員同士の保育観や意識などがすり合わせられるとともに、自分たちの言葉で保護者等に発信する力を高めている。前述のテーマに沿った内容を便りに掲載するとともに、フロア便りにおいては、活動や取組だけでなく、プロの視点でコメントを付記することにもつながっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの自主性・自発性を尊重し、「誉める保育」によって自己肯定感を育めるよう、自己選択できる環境や保育内容の工夫に努めている
	内容	日々の生活・遊びの各場面において、保育者は子どもの自主性や自発性を尊重し、意欲や行動を誉めることで、子どもの主体性や自己肯定感を育めるよう取り組んでおり、環境構成や保育内容の工夫に努めている。子どもが自分の関心のあるものに自由に組み込み、遊び込めるよう、教具・教材の周りには机・椅子を用意し、定期的に見直しを図っている。また室内・園庭のどちらでも遊べるよう、職員の見守りの体制を整えるほか、食事も時間内であれば、自分の空腹のタイミングで食べたい仲間と食べられるようにするなど、自己決定の自由の保障に配慮している。
2	タイトル	イメージをふくらませ、自由に表現することや演じることの楽しさを味わう活動を通じ、自己肯定感を高め、創造力や表現力を養っている
	内容	造形活動は外部講師を招いて行っており、さまざまな素材・道具・表現技法を体験しながら、自由な表現を楽しむことをねらいとしている。施設内には、造形活動等で作った作品が展示されており、子どもたちの自己肯定感が高められている。オペレッタは12月の「フェスティバル」での発表を見据えて、計画的に取り組んでいる。音楽に合わせて形態模写やリズムに乗ることを楽しむところから始め、それぞれがイメージをふくらませたり、みんなで演じることを楽しんだりしながら作り上げており、子どもたちの想像力や表現力が養われている。
3	タイトル	保護者に対し、さまざまな工夫と情報発信などのもとで、子どもの育ちや保育などに関する園との相互理解を深めている
	内容	保護者と子どもの様子や姿などを共有できるよう、玄関フロアでは、職員が気が付いた子どものふとした言葉やエピソードの記録を掲示したり、「こどもかいぎ」と称して、5歳児のやり取りから発展した活動とその推移などを写真とコメントで紹介している。また、フロアごとの一日の様子の配信と園内掲示、行事ごとの子どもの様子を収めた動画の配信や玄関での閲覧等の工夫も行っている。さらに、随時で受け入れを行う公開保育、運動会・発表会等への参加のほか、送迎時の会話や保護者会での意見交換など、多様な方法で保護者との相互理解を深めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域に法人・園ならではの機能・専門性を積極的に提供し、社会的使命を果たしつつ、地域からの認知と評価をさらに高めることが期待される
	内容	地域への施設機能の還元は、コロナ禍発生後は感染防止に配慮し、見学受け入れ時の相談対応程度にとどめている。過年度に実施していた園庭開放や各種講座など、地域向けの支援を復旧・拡充させることも視野に入れており、保育施設としての社会的機能を果たしつつ、地域からの認知と評価をさらに高めることが期待される。またその一環として、正門横の掲示板や公園側の外周柵等では、食事や保健、さらには「誉める保育」をはじめとする法人・園ならではの知見など、乳幼児の育成に関する専門性をより活発に発信することも一考されたい。
2	タイトル	中・長期計画を経営層の総意のもとで改めて検討し、リーダー層の育成や同計画の実効性の向上につなげる工夫を期待したい
	内容	事業環境の状況等を踏まえた当園としての重点課題・目標等を示す中・長期計画を、昨年度からの5か年を期間として作成している。計画は園長が作成し、組織全体での共有や年度の事業計画への反映など、着実な実行・達成に向けた取組が今後の課題と思われるが、同計画を検討のフレームとして、改めて経営層間で話し合うなどし、園としての諸課題や具体的な成果目標を再検討することも意義あることかと思われる。現場を束ねるリーダー層の当事者意識を高めつつ、現場から見える課題なども反映させ、より園の実状に即した計画としてゆく工夫を期待したい。
3	タイトル	注力する組織の共通理解やコミュニケーション促進の一環として、大切にしている園の保育のエッセンスについても認識の共有を深められたい
	内容	昨年度より職員間のコミュニケーションと共通理解の促進に注力し、外部機関によるチーム力向上の研修や各階の「フロア会議」等、話し合いと認識共有の取組を重ねており、今年度は園の保育の柱となるエッセンスについて、各職員の学びを会議で共有する取組も設けている。例えば異年齢保育については、年間計画では年齢ごとのねらいの明確化に課題が見られているが、これに象徴される、保育において大切にすべきものを見直し、さらに掘り下げ、共通理解を深めることも、組織の協働性と園の保育の質をともに高めるうえで、有意義ではないかと思われる。